献　　辞

経済科学部・中川輝男教授は，平成13年３月を以て定年退職された。広島修道大学経済科学会は，長年に亘る先生の本学に対する教育・研究・大学運営に対する貢献に深甚の謝意と敬意を表し，ここに記念論文集を刊行する運びとなった。

中川輝男教授は，1958年に九州大学大学院経済研学究科を単位取得退学され，同年４月に九州大学経済学部助手の職につかれ，研究者としての道を歩まれることになった。それ以来，財団法人九州経済調査協会，福岡学芸大学，福岡県農業協同組合講習所，久留米大学などで経済調査の指導や商学総論，農業経済学，経済政策の講義を担当されたのち，1963年に開学間もない本学前身の広島商科大学に経済政策担当講師として着任された。先生は，創設期の本学に新しい学風を吹き込まれた。当時の経済学の科目は，専ら近代経済学で構成されていたが，本学にマルクス経済学を導入されたのは，中川先生を以て嚆矢となすものである。これ以降，本学では，近代経済学とマルクス経済学をバランスよく学べる態勢ができあがり，多くの学生が中川先生の学問と人柄を慕い，薫陶を受けて，育っていった。

先生の研究は，マルクス経済学・宇野学派の立場から，日本の農業問題分析を基軸に据えられ，これを理論的・実証的に取り組まれたものである。ここで詳述する紙幅がないが，戦後農政の三大転機を主軸として，日本農業を世界的な視野で据え直し，その上で，日本農業の現状分析と現下の課題分析が最近の主要な研究テーマである。先生の研究業績は，この分野における研究で新しい地平を切り開いたものと学会で高く評価されている。

先生は，大学の行政にも深く貢献された。先生が赴任された当時は，観音キャンパス時代で何もかも自分たちの手で作り上げていかなければならなかった。当時掲げられたパイオニア精神のもと，先生は，数々の役職に着き，大学の礎として，情熱を注がれた。大学紛争時代には，学生部長として，全共闘を相手に決してひるむことなく対応された先生の勇姿は語りぐさである。さらには，短期大学

部長，総合研究所長，商学部長として要職に着かれ重責をこなされた。先生の行政手法は，強い信念であり，滅私であり，展望である。

展望といえば，そもそも，商学部を分割して，新しい学部をつくろうという発想を持たれたのは，商学部長時代の中川先生であったといわれる。いろいろな事情で自ら手がけることはできなかったが，いわば中川先生は，経済科学部誕生の契機となったお人である。

人も知る，その人柄は，誠実･実直で，同時に熱い情けを秘めて，古武士の風格がある。後年，大分丸く穏やかになられたが，まさに九州男児の典型であろう。

先生の山歩きの趣味は，あまり知られていない。時間に余裕があると，近辺の山々を歩いておられた。この度の退職に際して長年部長を勤められた本学・山岳部主催の「退職送別会」で，現役・OB から，記念品として，リュック・サックを贈られたと聞く。

そのリュック・サックを背負いながら，どうか，先生がいつまでもお元気で，山歩きを楽しまれることを希望したい。そしてわが経済科学部の今後の発展と充実を見守っていただきたいと切望する。ここに教授の退職記年号を編むことができたのは，まことに慶ばしい限りであり，教授の一層の御健康と御活躍を祈念する次第である。

2001年 6 月

経済科学部長

児　玉　正　憲